

経営比較分析表（令和3年度決算）

岡山県 西栗倉村

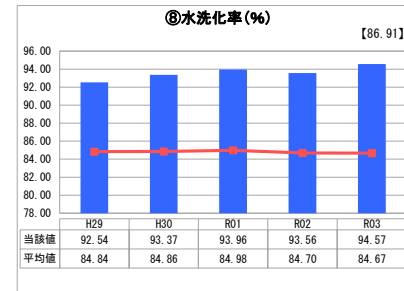
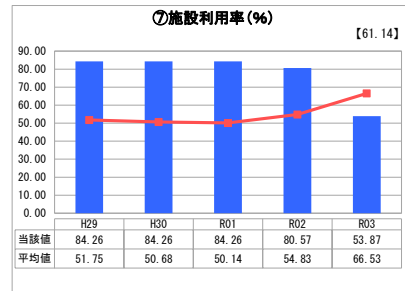
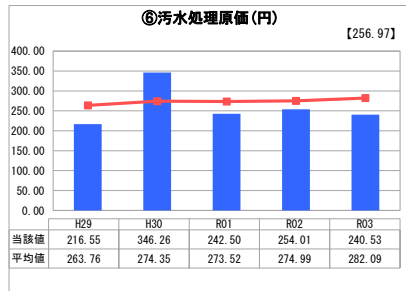
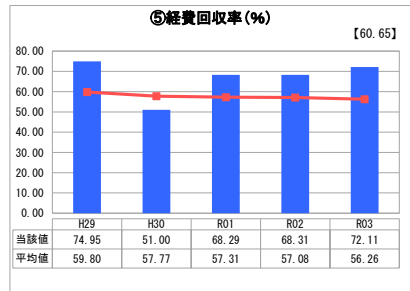
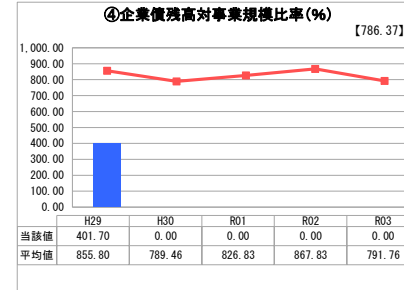
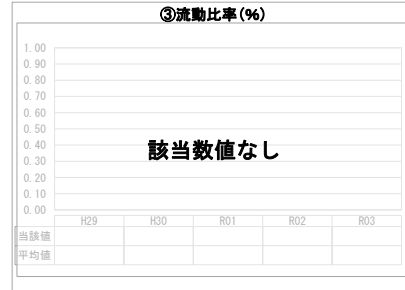
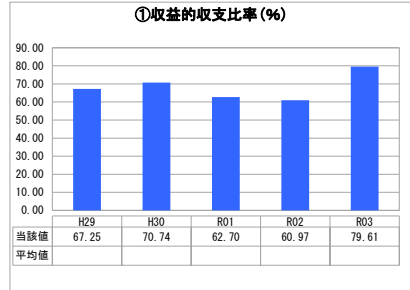
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	農業集落排水	F2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家賃料金(円)
-	該当数値なし	99.71	100.00	3,300

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
1,395	57.97	24.06
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
1,380	0.61	2,262.30

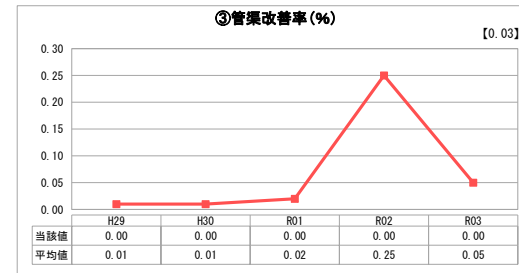
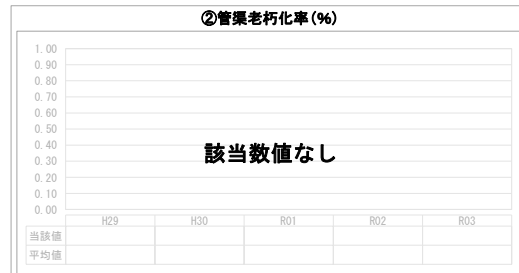
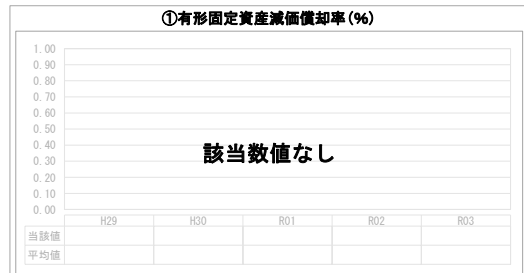
グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 令和3年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経営の健全性について、①収益的収支比率から見られるように実質赤字経営となっており、経営の改善が急務と考える。令和5年度頃まで地方債償還金が増加していく計画であるため、現状のままであると赤字がより一層増加して行く傾向にある。

地方債残高の規模について、④企業債残高対事業規模比率は0となっており、今後の更新事業により一時的に増加傾向になる。

料金水準について、⑤経費回収率について類似団体と比較した場合、平均を上回っており、引き続き適切な料金収入の確保を行う必要があるが、会計の安定に向けて料金改定等が必要と考える。

費用の効果性について、⑥汚水処理原価から類似団体と比較した場合、平均より下回っていることから、汚水処理に要する費用の効果性が高い。

施設の効果性について、⑦施設利用率から類似団体と比較した場合、効果的に汚水処理を行っている判断ができる。ただし、令和3年の施設利用率が対前年比26.7%落ち込み及び村内宿泊施設の閉館が主な要因と考える。

⑧の水洗化率については、類似団体より高い状況にある。非水洗の家庭については、高齢世帯など投資が難しい状況であるが、引き続き水洗化に向け施策を行ってきたい。

以上より、類似団体と比較した場合、現状においては費用及び施設の効果性は高く、経営に合った施設規模であるが、起債償還金等を一般会計から基準外繰入金により賄っているものであることから、適正な料金設定等収入面の経営改善が必要である。

2. 老朽化の状況について

平成6年に供用開始しており、供用開始から27年程度が経過しているため、平成22年度から順次機器等の更新を計画、実施している。管渠の更新は未実施であるため、早期に計画を立て更新を実施していく必要がある。

全体総括

施設の更新は随時行ってきたが、管渠の更新実績がなく、老朽化対策が不十分である。

施設改修を行いながらも経費回収率を類似団体平均値以上に保ってきたのは、一般会計からの基準外繰入りに頼ったものであり、正常な経営状況であるとは言えない。令和3年の収益的収支比率が前年から18.64%上昇しているが、これは主に修繕料が前年に比べて大幅に減少した結果である。

施設利用率の落ち込み要因は前述のとおりと考えるが、コロナ禍の終息後又は新たな宿泊施設のオープン後においても施設利用率が6割を落ち込む場合は、計画処理能力の見直しを視野に入れる必要がある。

料金の見直しを含めた経営計画を行う必要がある。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。